

令和3年度 小林市立須木中学校 学校関係者評価書

4 段階評価 | 4 期待以上 | 3 ほぼ期待通り | 2 やや期待を下回る | 1 改善を要する

令和3年度須木中学校教育目標「確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち 未来をたくましく生きぬく生徒の育成」
 「知」学習指導の充実（◇基礎的・基本的な内容の充実を図り、自ら課題を解決する資質や能力を育成する。◇言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。◇学習に取り組む主体的な態度を養い、学習習慣の確立を図る。◇「学習・情報センター」として学校図書館を計画的に活用し、主体的・意欲的に学ぶ資質や能力を育てる。＊学級生活満足群80%）
 「徳」道徳教育の充実（◇人権尊重の精神を養い、自他の人権や生命を尊重する実践的な行動力を育成する。◇社会の一員としての義務を果たし責任を重んずる態度を育成する。◇公共の精神を身に付け、社会全体の利益を図ろうとする脂質や能力を育成する。◇あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働できる資質や能力を育成する。＊学級満足群80%）
 「体」「食」体育・食育の充実（◇自ら進んで運動に親しみ、体育や健康・安全に関する活動を実践する脂質や能力を育成する。◇生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する脂質や能力を育成する。◇食育の推進とともに、心身の健康の保持増進を実践する資質や能力を育成する。＊体力テストの結果前年度の105% ＊むし歯治療率100% ＊朝食欠食率0%）
 「夢」キャリア教育の推進（◇キャリア教育を積極的に推進し、一人一人にふさわしいキャリアを形成していくために必要な資質や能力（基礎的・汎用的能力）を育成する。○人間関係形成・社会形成能力 ○自己理解・自己管理能力○課題対応能力○キャリアプランニング能力 ＊須木中学校と関係する外部の人材（関係人口）を増やす。）
 「誇」各種行事等の充実（◇わが国や県、郷土小林市の伝統、文化、自然等に対する関心や理解を深め、継承・発展させる資質や能力を育成する。◇国際感覚豊かな広い視野をもち、新しい文化の創造と発展に貢献できる資質や能力を育成する。◇英語等を活用して小林市（須木地区）を世界に発信する表現力やコミュニケーション力を育成する。）

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者のコメント
知	重点目標：学習指導の充実				・受検率84%は素晴らしい。漢検も声かけが必要。
	1 学びたい度80% ・各種検定の受検の推奨（目的を持って学習する場を提供し、達成感を味わわせる。）	今年度の英検受検率は84%であり、目標を達成した。学校予算から英検受検料の助成をしていただき、英語科職員や学級担任が熱心に声かけをしたことが理由として挙げられる。受験者数の関係で漢字検定が実施できない現状があるため、今後改善が必要である。	3 (3.4)	4 (3.6)	・英検・漢検共に今できる事へ挑戦してほしい。 ・英検の補助はグローバル化の社会に対応するのにありがたいが、漢検は地域格差があり、課題が残る。
	2 NRT→昨年度比較105% ・昼休み学習会の実施（3年生の受験対策として、1、2年生の苦手克服の機会として計画する。）	NRTの結果を見ると、徐々にではあるが、各学年学力は向上している。個に応じた学習（苦手克服）の手立てとして、昼休み学習会や課題の工夫を実施した効果だと思われる。今後より自主的な学習の場として学習会や家庭学習の工夫改善を図る必要がある。	2 (2.2)	3 (3.0)	・自分の苦手を知ることが必要。 ・自発的に学習する習慣を家庭ぐるみで取り組んで欲しい。
	3 外部人材活用20名 ・キャリア教育の充実（外部講師の積極的な活用）	全学年、総合的な学習の時間を中心に外部講師を活用して貴重な体験や学習をすることができた。今後、総合的な学習の時間やこすもす科での外部講師の計画的な活用については、計画的に位置づけ、数を精選する必要がある。	4 (3.6)	4 (4.0)	・外部講師による学習、ICTもかねてとても充実している。 ・外部講師を活用して貴重な体験や学習をする事は素晴らしいと思う。
	4 タブレット利活用週2回 ・授業内での発表や資料読解問題への取組（表現力の向上）	ほぼ毎日、多くの教科や教科外の活動でタブレットを活用できている。特に PowerPoint を使って発表する際の表現力は向上し、タイピング能力もコンテストの実施のおかげで飛躍的に向上している。毎朝自分のタブレットで健康観察の入力も行っている。	4 (3.7)	4 (4.0)	・ブライントタッチ、若いうちに習得を！ ・ICT推進校として十分できたと思う。 ・立腰はなかなかできていない様に見受けられる。自分自身の意識を高めてほしい。
5 立腰指導の徹底 ・セルフチェックウィークの計画的実施（授業態度・意欲の向上）	始業・終業時や集会時の立腰はできているが、授業中や給食時は崩れる生徒もいる。セルフチェック・ウィークを設定し、自分で意識させるようにしているが、授業中や給食時間などは今後も声かけ等が必要である。集会や委員会活動で常時意識させるようにしていく。	2 (2.3)	2 (2.3)	・家庭での意識が必要。 ・学校だけの指導では無理。家庭との連携を。	
徳	重点目標：よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実				・気軽に相談できる関係づくりから始まると思う。親御さんもしかり。
	1 学校生活満足度80% ・教育相談等による問題・悩みの早期発見 ・自己存在感、自己肯定感を高める学級経営や学校行事での役割分担（一人一役）と賞賛（振り返り）	毎月1回のいじめアンケートや年3回の教育相談を実施し、悩みの早期発見を行っている。職員が生徒一人一人に気を配り、丁寧な指導を行っており、気になることは管理職に確認し、効果的な対応がとれるように心がけている。今後は生徒自身の判断で計画し、決断・実行させたり、振り返りをさせたりする時間を取れるようにしていきたい。	3 (3.0)	3 (3.3)	・相談しやすい環境づくりが大切。 ・相手の立場になって考える姿勢を身につけてほしい。 ・読書の時間が生活習慣の一部になってほしい。週に何日か
	2 読書活動の推進（一人平均年12冊） ・学級文庫の設置・読書時の本を図書室から貸し出す ・年12冊の目標の達成呼びかけ・生徒の希望図書購入	職員間で様々な協議を行い手立てを講じているが、読書量の個人差を埋めることができていない。PTA活動として「須木のおすすめ文庫100選」の設立と称し、保護者や生徒から中学生が読むべきおすすめの本を紹介してもらったので、連携して読書量を増やしていく。	3 (2.5)	3 (3.0)	家族での読書の時間もあっていいのかもしれない。 ・家庭教育に頼る部分が多い。本だけでなく新聞や市報など、関心をもたせたい。
	3 不登校ゼロ ・教育相談、学校内での居場所づくり ・いじめアンケートの実施（月1回）	生徒の個性を生かし、学級内での居場所づくりを各学年工夫して行っている。不登校生に対しても誠実に対応しているが、改善の兆しが見えないのが現状である。保護者との連携を図りながら、外部専門機関に相談し、新しい解決手段を準備中である。	3 (2.5)	3 (3.0)	・本や活字に興味を持たせるようにしたい。 ・家庭との連携をしっかりとやる。 ・不登校ながらも、ネットで学習したり趣味を伸ばすことも
	4 いじめの早期解決 ・教育相談、生徒との全職員による積極的コミュニケーション・いじめアンケートの実施（月1回）	年3回の教育相談、月1回のいじめアンケートは定期的に行っている。実施後、気になる点についての共通理解が教師間で図られている。トラブルに対しては迅速に対応し、日頃から生徒の様子や人間関係をしっかり把握・観察し、コミュニケーションを図っている。	3 (3.0)	3 (3.3)	できるのでは。 ・職員間や職員と生徒間で、よく話をすることが必要だと思う。
5 「特別の教科 道徳」の授業の充実 ・年間指導計画に沿った確実な授業の実施 ・導入の工夫、タブレット等の活用、考えさせる授業の工夫	学級担任が計画的に取り組み、年間計画に沿って実施している。時間を設けて、議論させたり考えを深めさせたりするなどの工夫を行っている。道徳の授業においてもタブレットを上手く活用しながら、生徒たちの心が揺れる発問を工夫する必要があると思う。	3 (2.8)	3 (3.3)	・ことばや行動が人を傷つけ、取り返すことができないことの経験がなくても将来に備えて考える人になってもらいたい。 ・道徳の授業で得る物は大きいと思うので大事にしてほしい。	

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者のコメント
体	重点目標：健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための健康・保健・安全教育の充実 1 体力テスト昨年比105% ・体育の授業前の走り込みや握力、ストレッチを行い、体力向上を目指す。また、体力アップ週間を設け運動に親しませる。 2 防衛能力アップ ・生物的ストレスや精神的ストレスに対して抵抗力を上げるため、生活習慣を見直し、実践する。	定期的に体力アップ週間を設けており、体力をつけることや運動をすることの大切さなどの意識付けを図ることができている。体育の授業前に運動場を走る時間を設けて体力アップを図ったが、コロナ禍で家の中で過ごしたりゲーム機などで遊んだりする生徒が増えたため、体力は前年度より落ちている。家庭での運動などを通して、体力づくりをする必要がある。養護教諭による個別の健康相談等を行い、健康面の見直しはできたと思う。生活習慣を、見直させたことで、生活習慣病予防につながった生徒もいた。精神的ストレスに対する弱さを克服するため、生活習慣がどのように精神面に影響を与えていくのかの啓発が必要である。	2 (2.3)	2 (2.3)	・コロナ禍ではあるが、家庭での運動が少なすぎる。家でできる運動を促す。 ・外で体を動かす事でストレス解消に繋がり、又、体力アップの面からも運動を心掛けてほしい。 ・コロナ禍で家にいる時間が増えたのは分かるが、一日の達成目標をまず決めていないのでは？ ・自己管理ができていないかをチェック！
食	重点目標：持続可能な食を支える学校における食育の推進 1 う歯治療率100% ・学級担任と連携し、本人や保護者への積極的な啓発を行う。 2 朝食欠食ゼロ ・実態を把握した上で、健康教育相談等を活用し、朝食改善に対する意識を向上させる。 3 コロナ対策の徹底 ・基本的な感染症対策の習慣化を図り、生徒自身が感染リスクを判断して行動できる態度を養う。 4 箸の持ち方等食事マナーの徹底 ・給食時間を通して、食事のマナーを理解し、積極的に食事のマナーを改善しようとする態度を養う。	本人や保護者への啓発を行い、治療率は100%である。学級担任から保護者への電話連絡や通信での啓発、養護教諭から生徒への直接的な声かけ等を行ったことが大きかった。引き続き見守りながら、治療率100%を達成したい。 タブレットでの健康観察に朝食の有無の項目を加えて実施したため、欠食の報告はほとんどなかったが、寝坊で食べてきていない生徒もいた。学校保健安全委員会や保健だより等で保護者への啓発を行ったり、食育講話で朝食の大切さを生徒自身に感じさせることができた。 県の対策措置や市の感染状況に合わせて、養護教諭を中心に、校内の感染対策が徹底されている。集会や保健だより等でも定期的にコロナウイルスの予防について話を行ったことで、生徒自身の危機感を高めることができたと感じる。ハンカチの持参も指導を続けていく。 食事のマナーについては、常時指導を行っている。肘を付いて食べる生徒もいるが、その都度職員が呼びかけや指導を行っている。マナーの一つである箸の持ち方については、家庭との連携が必要である。ほぼ毎日残食は0だったが、好き嫌いのある生徒が多いため、食に対する感謝の気持ちをもっと向上させる手立てが必要だと感じる。	3 (3.0)	3 (3.3)	・歯みがきの達人を目指して欲しい。マンネリにならないように。 ・自分の歯で食べられる喜びを知り、歯を大事にしてほしい。 ・保護者・生徒自身が朝食をしっかりと取る大切さを知る事が大事である。 ・引き続き朝食の大切さを伝えることが大事だと思う。 ・地区で発生していないので、しっかり対策できているのは。 ・危機感をもって感染対策に努めてほしい。 ・生徒自身の徹底がされていれば予防できる。 ・食事のマナーは基本的生活習慣。感謝の気持ちで食を頂いてほしい。 ・家庭との連携も必要。 ・家庭教育の範ちゅう。家庭で辛抱強く声をかけて欲しい。
夢	重点目標：キャリア教育の推進 1 こすもす科の授業の充実 ・こすもす科の授業内容を充実させ、ふるさとを大切にし伝統を継承しつつ、発展させていこうとする態度を養う。 2 キャリアプランの活用推進 ・キャリアプランを活用し、行事や学級活動、進路学習の節目において、自己を振り返り、自己実現を図る道筋をつくる。 3 リモートによる授業や講演会等の充実 ・須木中学校と関係する外部の人材（関係人口）を増やす。	概ね年間指導計画通りに計画的に取り組んだ。地域の方々の協力をいただき、こすもす科の学習内容は充実していた。ふるさとに対する愛着や発展させていこうという態度を養うまでには至っていないため、小学校から系統的に地域の方々と連携して須木について学ぶプランを各学年に入れていくべきだと思う。 各学年の目標達成に向け、計画的に取り組むことができたと思う。リモートによる授業が充実していた。キャリアパスポートを書かせることに時間を費やし、上手く活用するところにまで至っていないのが現状である。全体のキャリア教育全体計画に基づき、年間実施計画を充実させていく必要がある。次年度に向け、内容の精選（取捨・選択）は必要だと思う。 多くの外部人材の方々に協力していただきながら、リモートによる授業や講演会等が実施できた。生徒自身も刺激を受け、貴重な体験や学習をすることができた。次年度以降、外部人材を活用した授業については、計画的な準備と数の精選が課題である。	3 (3.12)	4 (3.6)	・地域の課題に目を向けることはすばらしい。むらづくりにも子どもから提案があるとうれしい。 ・コロナ禍でもあるので、なかなか地域の方々との触れ合いもできないと思うが、連携を保ち、須木について学んでほしい。 ・もっと須木内の行ったことがない地区などに行くのもいいと思う。 ・自分が起業するならどんな会社を作るか計画してみるのもあり。 ・体験する事が一番だと思う。生きる力を養ってほしい。 ・外部講師との連携がよく取れている。
誇	重点目標：各種行事・研修等の充実 1 行事への主体的な取組の推進 ・生徒が行事の企画・運営に積極的に携わり、成就感・達成感を感じられるように支援する。 2 英語教育の充実 ・英語等を活用して小林市（須木地区）を世界に発信する表現力やコミュニケーション力を育成する。 3 魅力ある職員の人材育成 ・環境の変化に応じて学び続け、生徒一人一人の学びを最大限に引き出す伴奏者としての能力を育成する。	旧生徒会は生徒会サミットやSDGsの発表、校則検討委員会等新しいことに挑戦し、新生徒会は人数が4人と減った中、粛々と生徒会活動を継続させて頑張っている。毎週水曜日の昼休みには生徒会役員会を行い、生徒会担当を中心に継続的な指導がなされている。 英語検定、英語暗唱弁論大会、英語落語等多くのことに挑戦している。1年生は紙屋中とのリモート授業を行い、英語での交流を図った。2月に、3学年合同授業で英語で外国の方とつながり、コミュニケーションを図るという取組を実施する予定である。授業での表現力の技能向上を図りながら実践にまでつなぐことができるよう、工夫していきたい。 今年度は、ICTに関する研修も多く受け、教員側の指導の幅も広がったように感じる。あらゆる形で講話を聞く機会を得ることができ、次年度以降も生徒ともに学び、活用していきたいと考える。年3回の職員研修は新しい取組で、教師の枠を越えた新しい視点を育てる貴重な学びになった。	3 (2.8)	3 (3.3)	・生徒発信の挑戦を、もっと増やしていくとよい。 ・校則検討は時代に合った発想でよく言い出したと思う。規則・マナーに対する意識が高まったのでは？ ・新しい事への挑戦、素晴らしい事だと思う。 ・英語落語、弁論など堂々の発表を見させてもらったが、能力が高い！！ ・須木地区を世界に発信でき、楽しみな事だと思う。 ・英語教育は充実していると思う。続けていってほしい。 ・生徒の伴奏者、すばらしい考え方です！ ・職員の人材育成に努められ、素晴らしい事だと思う。 ・生徒と一緒に成長していくという気持ちでやってほしい。

次年度の方向性についての校長所見	<p>◇ 教職員の人材育成（資質向上）を考えながら職員研修の在り方を改革したり、コーディネーター制度を導入して当事者意識と責任をもって学校運営に取り組んだ1年となった。その結果、社会の流れや変化を意識した教育の提供（ICTを含む）をしようとする意識等が高まってきている。次年度、継続した意識改革と行動改革を図りたい。</p> <p>◇ 学校教育の土台（基礎基本）となる「知・徳・体・食」のどこに（何に）力を入れて取り組んでいくのかを小学校と連携し、認知学力と非認知学力のバランスを考えながら全教職員で協働した学校運営を意識する。特に、GIGAスクール推進校として、ICTをツールに個別最適な学びと協働的な学びの実践に力を注ぎたい。</p>
------------------	---